

北九州憲法ネットニュース

発行 9条の会・北九州憲法ネット 2016年7月26日 第87号
 TEL592-5000 fax 571-4346
 803-0817 北九州市小倉北区田町13番21号田町ビル3F
 URL⇒<http://kitaq-kenpou.net/>

第9条

戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

《参議院選挙の結果をどう見るか》

改憲勢力の圧勝か?野党共闘の前進か!

9条の会・北九州憲法ネット代表世話人座長 荒牧 啓一

【日本会議は、憲法改憲の絶好のチャンス、我々は国軍をつくる】

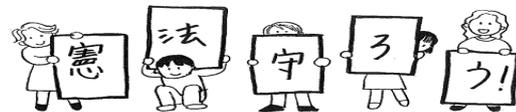
7月10日投開票の参議院選挙は、日本の岐路を決する選挙でした。日本の平和を維持するのか、日本を戦争できる普通の国にするのかが問われるはずでした。そして、改憲勢力の参議院議席3分の2を阻止できるのか否かが課題でした。

しかし、結果としては、残念ながら改憲4党(自・公・お維・こころ)が非改選勢力と合わせて参院の3分の2(162議席)を占めることになりました。

早速、日本会議(全国の地方議会に憲法改正決議案の議決を求めるなど、改憲運動を繰り広げてきた。この団体を支援する議員連盟「日本会議国会議員懇談会」には、現職国会議員の4割が参加しているという)の会長の田久保忠衛・杏林大名誉教授は7月13日、日本外国特派員協会で記者会見し、改憲について「絶好のチャンスを迎えた。私が安倍(晋三首相)さんなら、任期内に全力を挙げて実現したい」「日本会議としては、これからいろいろな運動を検討して乗り出



していくんだと思います」と、改憲運動を加速させたいとの希望を述べました。



【参議院選挙は敗北か一野党共闘の前進か】

昨年の安保法制＝戦争法で憲法の立憲主義を乱暴に壊破した安倍首相は、通常国会で「任期中の二年以内に改憲国民投票を成し遂げたい」と明言しましたが、またもや選挙の最大争点である憲法問題から逃げました。安倍首相は、6月8日に参議院選挙向けの本格的な遊説を始めてから7月9日の東京での最後の演説まで、延べ40都道府県で100回以上の街頭演説を行いましたが、一度も憲法問題に触れませんでした(7月12

日赤旗2面)。安倍首相は、今回も「改憲を叫ばぬ争点隠し」を行ったのです。

他方、今回の選挙は、昨年の12月20日の「市民連合」の戦争法廃止と同時に高く掲げた「人間の尊厳を尊重する政治の実現」という呼びかけがあり、これは中央段階での野党共闘の一致点に広がり、15本の法案の共同提案、各地の一致点の一步一步の前進に結びつき、6月7日の市民連合と野党4党の合意署名に結実し、全国32の一人区のすべてで統一候補が実現しま

した。

結果は、11の選挙区で野党統一候補が自民候補に勝利し、沖縄と福島では現職大臣を破りました。

今回の改選議席を選んだ2010年の選挙は民主党政権下で、民主8勝;自民21勝。13年の選挙は、自民政権下で民主党は惨敗、自民29勝。1人区の勝利は沖縄だけでした。従って、今回の選挙は、民主(民進)党が、後退することは「所与の前提」で、それを野党共闘でどこまで押し返せるかが問題でした。1人区は、上記のとおりですが、32のうち28の選挙区で統一候補の得票数は、野党4党の比例代表の合計得票を上回ったのです。そして、3～6人区では、自民22;

「野党4党」11。2人区は自民4;「野党4党」4。比例は自民30;「野党4党」18。これは、明らかに野党共闘の大きな成果です。

そして、矛盾が最も深刻化している沖縄と福島で現職閣僚が落選し、被災3県(岩手、宮城、福島)で一つも議席が取れず、「北の農耕地帯」というべき北海道・東北・甲信越1道9県で「勝ったのは秋田だけ」という結果です。決して「安倍政権の政治が信任の風が吹いた」などとはいえません。

野党共闘は、まだまだ課題がありますが、よく戦って押し返したと評価出来ます。そして、国民は改憲への「白紙委任」を自公に与えたものではありません。

【今後の戦いの展望、平和な日本を子供らに残すために】

参議院選挙の結果は、「1足す1」が2ではなく、3にも4にもなる共闘が可能ということです。安保法制の撤回と立憲主義の回復、そして改憲阻止という大義、加えて経済や暮らしの分野でも粘り強く話し合えば共通政策は増えます。「政治は変えられる」ことに確信を持ちましょう。

安倍首相は、選挙が終わるや、選挙中に一切触れなかった憲法改正に言及し、憲法審査会において議論するなどと言っています。

自民党の憲法改正草案は、すでに野党時代に作った草案が発表されています。

是非、この自民党憲法草案を読んでみましょう。自民党、安倍首相に本音が露骨に書かれています。

また、私たちは、憲法をもう一度学び、憲法の理念を日々の暮らしに生かしていく活動を行いましょう、「憲法9条」を光り輝かせ、世界に輸出しましょう。以上

憲法随想

サクマドロップ

後藤 景子(弁護士 女性法律事務所ラレーヌビクトリア)

ある昼下がり、テレビを見ていたら、1945年の長崎、広島への原爆投下に関するアメリカ国民の意識調査に関する報道がされていた。

原爆投下は誤りだったという国民が逆転して増えた、特に、40代以下の国民の大多数が誤りだったという意識を持っているという報道であった。

番組では、88歳の元アメリカ軍将校のインタビューが流れ、原爆投下により多くのアメリカ人の命が救われたのは事実であり、オバマ大統領は決して謝ってはならない、というインタビューであった。



原爆投下は人の命を奪う行為であり、正当化される余地は全く無いと思う。

人の命を犠牲にして人の命を救うというのは許されないことである。

誰の命も奪われない世界を作るべきだと思う。

アメリカでは、原爆投下により多くの国民の命が救われたという意見と、日本国民の命を犠牲にした原爆投下は誤りだったという両論を併記してディスカッションするという形式の授業を行っている教育機関が多いそうだ。

次の一步は自分のことでも政治のことでも、押し付けではなく自分で考えて決めていく、それはどんな時代でもあるべき普遍の原理だと思う。

ありもしない大量破壊兵器の存在を決めつけ、アメリカが起こしたイラク戦争に無条件に加担したイギリス政府は当時を振り返り、問題を認めたが日本政府はどうだろうか。

ISを生み出した原因は、不条理なイラク戦争だったといわれている。

テロ行為により多くの命を奪っているISを擁護する気持ちはないが、このような世界にしてしまったことに、イラク戦争に加担した(後方支援と政府は言っていたが)日本の責任がないとは思わない。

最近、中国にディズニーランドがオープンした。巨大なアメリカ資本が投資されているということである。アメリカと中国の軍事衝突があるかないか、冷静に考えて答えは出ている。

一方で、現在の日本の軍事力で中国軍に勝てる可能性は無いであろう。

では日本は何のために軍事力を増強するのか。

国際司法裁判所の判決を「紙屑」と表現した中国政府の対応から、国内のナショナリズムを抑えることができず軍が暴発してしまう危険性を見極める必要はあるかもしれないが、日本が軍拡すれば、軍事衝突が益々現実化すると考える方が自然ではないかと思う。

最近、スーパーでサクマドロップ復刻版が販売されている。

缶には「蛍の墓」の映画のワンシーンが印刷されている。「蛍の墓」とは、空襲から逃れる中、幼い妹が兄を頼りながらも栄養失調のため亡くなってしまう悲しい映画だ。

今日の昼下がり、原爆を投下されることもなく、平和に過ごしていることを当然に思わずに、不断の努力なしには平和は維持できないということを胸に刻みながら、サクマドロップを噛みしめ、平和を噛みしめながら私は生きている。

大橋巨泉氏が臨床で綴った“遺言”「安倍晋三に一泡吹かせてください」テレビ等一切報じず

長らく闘病生活を続けていた大物司会者の大橋巨泉氏がなくなりました。自身が連載していた「週刊現代」(講談社)のコラム「今週の遺言」でも、3月半ばから体力の落ち込みがひどく、4月には意識不明の状態に陥り、2週間ほど意識が戻らず、5月からは集中治療室に入っていたと記載していました。そのため連載は4月9日号を最後に休載となっていました。7月9日号をもって最終回とすることです。その最終回原稿では、「体力が戻ってこず衰えた。たまに車椅子で外に出れば直ぐに高熱を出す始末である。ボクにはこれ以上の体力も気力もありません」と、死をも意識



する重篤な病状にあることを繰り返し綴っています。深刻な状態だったようで、この最終回の原稿も、妻と弟のサポートを受けて何とか完成まで持っていったものだとのことです。その最終回の原稿の最後は、こんな文章で締められています。「今のボクにはこれ以上の体力も気力もありません。だが今も恐ろしい事や情けない事、恥知らずな事が連日報道されている。書きたい事や言いたい事は山ほどあるのだが、許して下さい。しかしこのままでは死んでも死にきれないので、最後の遺言として一つだけは書いておきたい。安倍晋三の野望は恐ろしいものです。選挙民をナメている安倍晋三に

一泡吹かせて下さい。7月の参院選挙、野党に投票して下さい。最後のお願いです」このように「何時まで生きられるかわからない」「ボクにはこれ以上の体力も気力もありません」と死を意識する壮絶な状況のなか、巨泉氏がまさに最後の力を振り絞って綴った、「最後の遺言」。それは、「改憲」を争点からひた隠しにして参院選を行い、着実に日本を戦争へと向かわせている安倍政権への痛烈な批判でした。しかし、盛んに大橋巨泉氏を悼む報道が行われているが、「最後の遺言」の報道は報じられていません。(憲法しんぶん速報版 2016年7月22日(金)第644号から)

9条の会・北九州憲法ネットへのカンパのお願い

04年7月、「9条の会・北九州憲法ネット」は、井上ひさし、大江健三郎氏ら9名の「日本国憲法は、いま、大きな試練にさらされています」「日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、今すぐ始めることを訴えます。」との呼びかけ(同年6月)に依りて、結成されました。

当会は、一貫して、憲法及び9条を学び、守り発展させるため、学習会や講演会、署名活動、街頭宣伝などの諸活動を行ってきました。ニュースの発行は、85号になりました。毎回700人の方にニュースをお送りしたり、手渡ししたりしています。その費用は、当会は会費がないのですべてカンパで賄っています。安倍政権の憲法破壊、立憲主義無視の暴走を阻止する戦いは山場です。しかし、当会の活動資金が枯渇しています。皆さんのお力で当会の活動を支えてください。

カンパありがとうございます。そして、お願い!

振替番号：01700-8-115768 名義：「9条の会・北九州憲法ネット」

6月 渡辺末子 末安良光 吉本まさ江 本島富士子 古賀三千人 堤瑤子 河村智重子 橋本和生 平岡博 竹中松夫 山本知恵子 三輪俊和 三輪幸子 佐多道人 7月 小野柁一郎 小野文子 野瀬秀洋 川辺希和子 内田津名夫 川原 巍誠 谷口靖子 鳥居淑子 渡辺和子 三原富子 田中慶子 高野和夫 小沢和秋 尾鶴眞 中村洋一郎 東繁利 田島勝彦 木村昌稔 広津輝男 小泉孝 **メッセージ** ●いつもの少して、申し訳ありません。5/26 U. O ●立憲主義を守るためにガンバリましょう。微力ながらがんばります。6/3 H. S ●ニュースいつもありがとうございます。粘り強い発信で励まされます。6/3 K. K ●カンパ 6/3 T. K ●オバマ大統領の広島訪問は意義深いものがあると思います。世界中の人々に原爆の悲惨さを知ってほしいです。6/6 M. A ●がんばって下さい。いつもありがとう。6/6 K. T ●会費のつもりです。よろしく。6/6 K. O ●カンパ 6/7 R. M ●カンパとして 6/7 T. K ●カンパ 7/6 T. M ●「講演の要旨」読んで元気を貰いました。選挙も頑張りましょう。7/6 K. T ●いつも通り、会費のつもりで納入します。よろしく。7/7 K. O ●カンパ 7/13 S. A ●いつも有難うございます。若い人を育てていく事が大事ですね。7/13 Y. N